



発達障がい児(者)及びその家族への心理学的支援に関する研究

[キーワード: 発達障がい、心理アセスメント、アイデンティティ]

教授 上岡 義典

〈研究の概要〉

医療・福祉・教育・保健などの現場で、発達障がい児(者)やその家族に対して、長年、臨床心理士の立場で関わってきた背景から、上記が包括的な研究テーマとなっている。基本的には、臨床心理学的アセスメントに基づく支援の在り方を探求しているが、近年では以下の3点が大きな柱となっている。

(1) 発達・知能検査結果の伝え方

(2) 発達障がい学生の修学・就労について

(3) 発達障がい児(者)のアイデンティティの確立について

(1): 発達障がい児(疑いを含む)に対しては、その心理学的特性を明らかにして有効な支援法を構築する目的から、発達検査や知能検査を実施する機会が増えている。しかし、これら検査結果の伝え方に関する研究が少ないこと、そして結果報告に対する保護者の満足度が高くないこと等が相談場面での報告や我々の予備調査の結果で示されたため、有効な支援に結びつく結果報告の在り方について数年前から研究している。

(2): 我が国の大学・短期大学・高等専門学校(以下、大学等)に在籍する発達障がい学生は年々増加している。彼らは、学業面、行動面・生活面、就労面において様々な困難さを示しているものの、十分な支援体制が構築されているとは言い難い。大学等でキャリア相談に携わった経験を機に、その後の社会参加を見据えた支援の在り方について研究している。

(3): 発達障がい児(者)の二次障がいの一つとして、自尊心や自己肯定感の低さがあげられている。発達障がいは、社会的問題となっている児童虐待の高いリスクとなることも踏まえ、彼らのアイデンティティ構築、あるいは再構築をどのように支援していくのかについて検討を重ねてきている。基本的には、二次障がいの予防という視点ではなく、発達障がい疑われた時点で既に二次障がいが存在するのでは?との観点から、関連学会での自主シンポジウムを中心に研究を進めている。

〈主要研究業績〉

・島 治伸・上岡 義典著. 特別支援教育時代の保護者サポート. ジアース教育新社, 2009年11月.

・上岡 義典・林邦雄・谷田貝公昭監修, 千葉茂明編著. 社会的養護内容. 第11章 治療的支援を理解する. 一藝社, 2014年4月.

・上岡 義典: 組織的でない発達障がい学生へのピアサポートの重要性と可能性, *リメディアル教育研究*, Vol.9, No.2, 30-34, 2014年11月.

〈地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績〉

・百々恵子, 椎野広久, 杉本絵理, 上岡義典: 継次処理が優位な小1自閉症男児への注意の持続および構成課題の指導, *K-ABCアセスメント研究*, Vol.15, 53-60, 2013年.

・杉本絵理, 上岡義典, 椎野広久, 田中良恵, 長田育子: 継次処理が弱く, 注意の持続が困難な就学前児のひらがな指導, *K-ABCアセスメント研究*, Vol.14, 29-35, 2012年.

〈地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ〉

・発達障がい者の修学・就労支援に関する研究

専門分野: 教育福祉心理学

E-mail: ueoka@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7204

Fax: 088-656-7204

詳細情報: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/286229/profile-ja.html>